九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Association Between Serum Vitamin D and All-Cause and Cause-Specific Death in a General Japanese Population - The Hisayama Study -

梅原, 薫

https://doi.org/10.15017/1931791

出版情報：九州大学, 2017, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

（別紙様式２）

氏　　名	梅原　薫
論　文　名	Association Between Serum Vitamin D and All-Cause and Cause-Specific Death in a General Japanese Population - The Hisayama Study -
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　中島　康晴 副　査　　九州大学　　教授　　筒井　裕之 副　査　　九州大学　　教授　　鴨打　正浩

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

アジアの地域一般住民における血清ビタミンＤレベルと死亡との関連を検討した研究はほとんどない。
申請者は、40 歳以上の日本人地域一般住民 3,292 人を 2002 年から 2012 年まで平均 9.5 年間追跡し、血清 1,25 ジヒドロキシビタミン D（$1,25(OH)_2D$）レベルと総死亡および死因別死亡との関連を検討した。多変量調整後の総死亡のハザード比は、血清 $1,25(OH)_2D$ レベルが低下するに従い有意に上昇した［第 1 分位：1.54（95％信頼区間 1.18 - 2.01)、第 2 分位：1.31（0.99 - 1.73)、第 3 分位：0.94（0.70 - 1.25)、第 4 分位：1.00（基準)、傾向性 P 値＜0.001]。死因別にみると、心血管病死亡および呼吸器感染症死亡では同様の関連を認めたが（いずれも傾向性 P 値＜0.01)、癌死亡およびその他の死亡では明らかな関連を認めなかった。腎機能レベル別に検討すると、腎機能低下群（推定糸球体濾過率＜60mL/分/1.73m^2）では腎機能正常群（推定糸球体濾過率≧60mL/分/1.73m^2）に比べ、血清 $1,25(OH)_2D$ レベルの低下と呼吸器感染症死亡との間により強い関連を認め、腎機能レベル間で関連の強さに有意差を認めた（異質性 P 値＝0.04)。
以上より、日本人地域一般住民では、血清 $1,25(OH)_2D$ レベルの低下は総死亡、特に心血管病死亡、呼吸器感染症死亡の有意な危険因子であった。腎機能低下群では、血清 $1,25(OH)_2D$ レベル低下の呼吸器感染症死亡に及ぼす影響が増強した。

以上の結果は、この方面の研究に治験を加えた意義あるものと考えられる。本論文の内容について、各調査委員より専門的な観点から論文内容および関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。よって調査委員会合議の結果、試験は合格と決定した。
なお本論文は共著者１１名であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。